

作成日：R7 年 7 月 15 日

令和 7 年度第 4 回 高松圏域自立支援協議会 運営会議議事録

日付	令和 7 年 7 月 11 日（金）
時間	9：20～10：50
開催会場	かがわ総合リハビリテーション福祉センター研修室
参加機関等	高松支援学校、高松市健康づくり推進課、直島町住民福祉課、地域活動支援センタークリマ、ヒトトコ、障害者地域生活支援センターほっと、相談支援事業所ライブサポートセンター、障害者生活支援センターたかまつ、地域生活支援センターこだま、障害者生活支援センターあい、一般社団法人 g a r y u、一般社団法人ええる、相談支援センターりゅううん、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 圏域アドバイザー：障害者生活支援事業所はなぞの 欠）ナザレの村 順不同 計 18 名

議題 1：各部会活動報告

議事	<p>・アルプスかがわより「権利擁護部会」への参画希望あり 次回の部会内で承認を得て運営会議に持込む予定。 （身体障害者支援部会より）</p> <p>「災害時」「病院の受入れ拒否」「ピアサポーター」「日常生活用具」などの課題に取り組んできたが、部会内でこれらの課題は身体障害者支援部会だけで取り組む課題ではないのではないかという意見が出ている。来年度以降の部会の在り方として、発展的解消を考えているので意見を欲しい。障害種別ではなく生活課題に即した部会があったほうがよいのではないか。</p> <p>⇒精神保健福祉部会については自分達の取り組む課題がしっかりある。 ⇒障害種別でそれぞれの障がいのニーズを拾う必要はあるのではないか？ ⇒事業所の横の繋がりが少ないので、繋がりを作る必要はあるのではないか。</p>
----	--

	<p>⇒医ケア部会もいろいろ課題があるが他の部会とコラボして取組む課題が多い、部会の在り方について同じように悩んでいる。</p> <p>⇒身体特有の困りごとがあるが困った人が部会に参加できていない。まずアンケートをとるのはどうか？</p> <p>⇒「日常生活用具の課題」については最後まで取り組む必要があるのではないか？部会の活性できないか？を同時に考えていき答えを出す。 (発達障害部会より)</p> <p>発達障害部会も発達障害をキーワードに横の連携を作る目的に発足した。障がい特性からでてくる課題というのではなく、生活課題があり、それに対して障がい特性から考えるのが良いのではないか。参加者も限られて部会として煮詰まっている。例えば「暮らし部会」というのを作って生活課題に対して発達障害のニーズを吸い上げて参加する形がよいのではないか？</p> <p>⇒専門に特化した部会と共通基盤の部会があったほうがよいのではないか。</p> <p>⇒知的障害者支援部会では当事者に参加してもらって困りごとを吸い上げている。困りごとを発信しづらい方のニーズをどう拾っていくかを部会でも話し合っている。</p> <p>⇒精神保健福祉部会では、「地域移行」「ピアサポーター」など他の部会とも共通の課題はあるが、長期入院の方へのアプローチなどはこの部会でないといけなと思う課題もある。</p> <p>⇒「防災」「移動支援」など生活課題については、課題にあわせてワーキングを発足する方がよいのではないか？ (就労支援部会より)</p> <p>7/2 に就労選択支援の研修を B 型事業所部会と合同で実施した。高松市で足並みを揃えていきたい。いくつかの事業所が指定を受ける予定。今後は就労支援部会、相談支援部会、B 型事業所部会、行政、学校と協議していきたい。</p> <p>高松市と今後の方針を協議していく予定。 (圏域アドバイザーより)</p> <p>障がい特有のニーズはある。課題の抽出は部会で、共通課題はワーキングで取り組むのはどうか？</p> <p>⇒部会の取り組みには予算が必要となるが、予算は限られているので部会が増えるほど、一つの部会の予算は減る。併せて相談支援専門員の基本はケースワークであるので会議が増えて、本来のケースワークに影響が出るのも心配である。</p>
--	--

	⇒部会の在り方は、色々と検討して高松型のあり方を模索していければ良いのではないかな。
--	--

議題 2： 運営会議で挙げた課題について	
議事	<p>「教育と福祉の連携」「合理的配慮」をテーマにグループワークを実施する。</p> <p>○教育と福祉の連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育と福祉のそれぞれが分かっていない部分が多い ・保育所等訪問を提供している事業所で集まって話す場を持つ。 ・事業所が増加している中で、改めて何のための事業か？法令順守事項についてを再確認する必要がある。 ・学校で保育所等訪問に関するマニュアルを作成中。 ・学校の現場をきちんとアセスメントしてから申請をすべきである。 ・以前より相互理解が進んできている。 ・保育所等訪問の制度を十分、理解する。 ・就労選択支援事業について高松圏域ではどういう状況か？ここでも教育と福祉の連携が求められる。 <p>○合理的配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の卒業生が就職した企業は学校と共有しやすい。 ・企業が連携先を知らない。 ・行政の窓口で合理的配慮についての窓口を周知する。 ・好事例を周知していけたらよい。 ・病院の受診拒否について、2つの病院で2極化している。 ・企業でも好意的な企業は面接や働き方にも配慮あり。 ・中小企業の障がい者枠の受入れが少ない中で、どのように配慮してもらえるか？ ・福祉サービス提供事業所でも合理的配慮が十分に出来ていない。 ・電動車いすの方がスーパーなどで、周りから自然に合理的配慮を受けていたのを見た。
議題 3： 香川県自立支援協議会より	
議事	<ul style="list-style-type: none"> ○基幹センター設置促進研修が7/25（金）に開催される。 ○相談支援現任研修のインターバル実習について ○今年度の相談支援主任研の候補者について

議題 4： 圏域マネージャーより	
議事	<p>○相談支援事業所はなぞのより</p> <p>短い時間で協議が出来ていることに驚いた。会議を減らす、効率的な会議の在り方を学べた。</p>
その他	
議事	<p>○次回 R7 年 8 月 8 日（金） 9:20～10:50</p> <p>場所；かがわりハビリテーションセンター第 1 研修室</p> <p>○第 2 回全体会 11/10（月） 10:00～12:00</p> <p>場所；かがわりハビリテーションセンター第 1・2 研修室</p>